

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>7. 我が国の各地の気候の特色（太平洋側、日本海側、瀬戸内、北海道）</p> <p>「北海道」の正答率は66%、「日本海側」は49%、他の二つは30%台である。</p> <p>誤答例として、「太平洋側」では「イ」（沖縄県）・「オ」（瀬戸内）、「日本海側」では「ア」（北海道）・「エ」（太平洋側）、「瀬戸内」では「イ」（沖縄県）・「エ」（太平洋側）、「北海道」では「ウ」（日本海側）を選んだものが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 自然条件としての各地方の気候の特色を、統計資料・写真等の活用により対比させながら、生活との結びつきを強調して指導することが大切である。 ◦ 我が国の南北の対比だけでなく、東西の比較もさせて、緯度、山脈の影響を把握させたい。 ◦ 気候グラフの読みでは寒暖の差や降水量・積雪等を関連づけて理解させたい。
<p>観点①（知識・理解）について</p> <p>我が国の食料生産と工業生産を取り上げ、それらの生産活動が展開する舞台としての国土についての知識・理解をみるための出題で、観点①の平均正答率は53%であるが、小問によっては21%～88%の差が見られる。</p> <p>正答率が特に低いものは、記入完成法による出題形式による問題と工業地域・気候区の特色についての理解をみる問題である。</p> <p>指導にあたっては、写真・絵・図表・テレビ・新聞などを効果的に活用して、国土の自然環境や社会的事象を児童に深く印象づけることが大切である。学習に出てくる重要な用語・固有名詞などは学習時にできるだけ多く使用し、またドリルなどをおして知識を定着させたい。</p>	
観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>② 資料活用能力</p> <p>1. 棒グラフの読み取り（畜産農家数の変化、畜産物の生産量の変化）</p> <p>グラフの年次変化を読み取る(1)の①の正答率は55%で、誤答としては「乳牛」としたものが多い。これは設問の「いちばんへったもの」を「いちばん少ないもの」に取り違えたためと思われる。(1)の②の正答率は48%で、誤答例としては「たまご」が目だつ。これも設問の「ふえたもの」を「多いもの」に取り違えたものと思われる。</p> <p>二つのグラフから読みとられる項目を答</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ グラフを読み取る場合には、まずそのグラフは何を表しているのか表題に注目させる。次に、グラフの単位、記号、注記、内容を読み取らせる。その後、グラフに書かれているねらいや特徴をつかませるように訓練し、正しい読み取りができるようにする。 ◦ 設問の要件を取り違えて答える例が見うけられるので、設問の読み取りは正確にしなければならない。 ◦ 「多い」、「少ない」、「増えた」、「減った」などのグラフ読み取りの基本的事項の徹底的